

●●●
運命の出会い



家族揃ってアメリカ次期主力戦闘機YF-22の前で

Hirohumi Hirono 廣野 博文

有限会社廣野商店 取締役

出身/名古屋市
血液型/AB型
信条/「やる時はやる。どうせやるなら楽しく」
嫌いなこと/中途半端



鉄道マニアから飛行機マニアへ。飛行機を見て写真を撮ることを生き甲斐として全国各地の自衛隊基地や飛行場を巡る廣野さん。この4月末にはラスベガスの航空ショー「ゴールデン・エア・タトゥー」を家族ともども体験。続けて5月の連休には岩国基地に行くあたり、これはもう達人の領域です。男の趣味、メカの世界に花井さんが飛び込みます。

——（まず先日参加した、米空軍50周年記念の航空ショー・ツアーの日程などを見せられ）あらー、ツアーになってるんですね。すごく特別で、マニアックな感じのご趣味のように思ってたから意外です。

廣野『航空雑誌なんかで募集してるんですよ。今回は一番発表の早かった旅行社のものに参加しました。』

—— 六日間とありますが、移動日などを考えると、あまりゆっくりできなかったんじゃないかな。

廣野『そうなんです。もう全然。ショーはその中で二日間だけなんですけど、女房と娘が疲れてホテルで寝ちゃいましてね。娘は三歳なんですけど、ツアーの最年少でした。』

—— うーん、三歳児とアメリカ空軍の航空ショー。ちょっと無理かも…。(アルバムを見て)でも金髪の子と仲良く遊んでますねえ。因みにここに写ってるのは何という機種？

廣野『これはYF22。アメリカの次期の主力になる戦闘機なんですけど。』

—— 何か洋ものの映画かアニメでしか見られないようなカッコいい航空機ばかりですけど、これ全部廣野さん名前わかるんですか？

廣野『わかります。』

—— ふーん、さすがマニアですねえ。このご趣味はいつ頃から。

廣野『まだ4～5年前です。実家がね、小牧の飛行場の近くで、子供のころは「あ、ボーイング727が飛んでく」という程度だったんですけどね。ある時、ジャンボの見たことないカラー

「……同じく……違つその魅力……」



リングの機体があったんですよ。緑色のラインがカッコ良くてね。それで興味引かれてわざわざ送迎デッキまで見に行っただけです。そしたらデッキの受付にいたオジさんが僕に「あれはアメリカの貨物会社の貨物機のジャンボなんだけど、日本航空が乗員と機体ごとリースで借りて、日本航空として飛んでいる飛行機だ」って教えてくれたんです。』

—— で、あ、面白いと…。

廣野『そうなんです。それから気になりだしましてね。そしたらいろいろあるじゃないですか、変わったのが。で、写真でも撮ってみようかなと思った頃に女房と知り合いました、女房の家がなんと飛行場の真ん前（笑）。迎えに行っただけで待っている間に見るんですよ。そしてハマッタと。』

—— 運命だったんですねえ。なるべくして、という感じですね。



マニア垂涎のU-2偵察機



おっとこれは岩国基地にて

廣野『そうこうしてるうちに見たこともないようなイスラエルのジャンボが来て、いっぱい人が来て写真撮ってる。離陸するところが撮りたかったんですけど、女房迎えにいかなきゃならない。今だに思うんですけど、待ち合わせに遅れてでも写真撮っとけば良かった（笑）。あの時は警備が凄かったです。PKOのジャンボが出ていく時も大変でしたけれども。名古屋空港っていうのは、自衛隊と民間共同でしょ。来るんですよ、自衛隊の全国に散らばっている部隊のF15のイーグルとかF4ファントムとか集まってくる。大阪から名古屋へ写真撮りに来る人達は「俺らは軍用機以外は全然興味ない」って言うんですけど、名古屋は土地柄というか、軍用機にも民間機にも興味持ってしまうんです。今回のツアーでも、サンフランシスコの乗り換えの時に民間機の写真撮ってたのは僕くらいのものでしたね。』

—— フィルムがいつしょうがないですね。

廣野『そうなんです。今回のツアーでもネガ20本、ポジ12本。』

—— ポジで撮るのはスライドにするからなんですか。

廣野『旅客機はポジで撮った方が他の人と写真を交換する時いいですね。何か国際的にはコダックのスライド仕様でないといけないみたいなの、そういうふうになってるようです。僕らでもいろんな人からもらいますからね。』

「………回つた瞬間の輝きの魅力………」

こういう時にお返しをしなきゃならない。だからどうしても撮りまくっちゃうんです。』



世界のレベル

——じゃあ、すばらしかった航空ショーのお話を。

廣野『今回はアクロバットチームはアメリカのサンダーバーズ、日本のブルーインパルス、カナダ、チリ、ブラジルの5カ国だったんですけど、本来ならイギリス、スイス、フランス、イタリアと来て、9カ国のアクロチームが来ることになってたんです。で、最初の日がヨーロッパデーで、次の日がアメリカをはじめとする5カ国ですね。ところがヨーロッパがキャンセルしちゃって、二日とも5カ国のショーになっちゃいました。ジェット機使ってるのはアメリカとカナダと日本。チリとブラジルはプロペラ機での実技でした。』

——へえーっ、プロペラ機での実技って趣がありそうですねえ。

廣野『ビデオ見ますか？ 面白いですよ。』

——（ビデオ見ながら）うわあ、まとまっていますねえ。1、2…9機編隊!?

廣野『カナダのスノーバーズです。離陸の時も9機一斉ですよ。見事なもんですよ。日本のチームは4機編隊離陸なんですけど。僕は日本のチームも結構レベルが高いと思ってたんですが、今回行って、ちょっと考え直さんと…（笑）。』

——やはり何でも世界を見ることですねえ。

廣野『そうです。そう思います。今回見られなかったヨーロッパなんて、もっと技術高いつて言いますから。高度も低いですしね。日

本はかつて事故があったから制約が多いという面もありますけどね。』

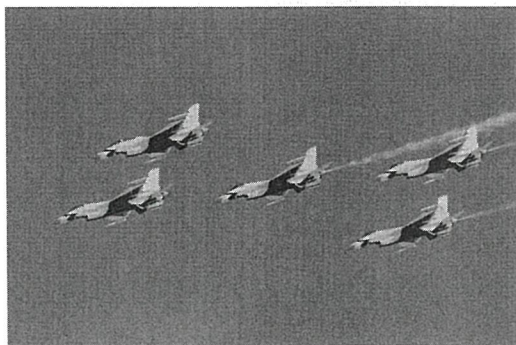
—— だけどこれ、飛行機と飛行機がくっついて飛んでる。どう見ても何かくっついているような…。

廣野『くっついてはいないんですけど…まあ、技術が高いんですね。ほんの少しの高度差が計算され尽くしてるというか…。大まかに言うとヨーロッパスタイルとアメリカンスタイルがあって、日本はどちらかというとアメリカンスタイルのようです。カナダなんかはヨーロッパスタイルで、ゆったりと華麗なショー構成ですね。カメラでパチパチ撮るよりボーッとただ見た方がいいなあという感じですよ。』

—— 国ごとのレベルや芸術性の違いがあるんですねえ。実は、飛行機見て何が面白いんだろうなんて思ってたんですが、少しわかりました（笑）。ただ飛ぶだけじゃなく、各国、演出にも凝ってますよねえ、このブルーとかピンクの煙の色はどうやって出すんでしょう。

廣野『これは油の調合にもよるんですが、日本のブルーインパルスなんかはスピンドル油っていう油に顔料を混ぜるんですね。エンジンの噴き出しのところにノズルがあって、そこから油を出して、というふうですね。』

—— しかしサンダーバーズってよく揃ってます



アクロバット飛行チームのサンダーバーズ

名人・達人 評判倶楽部

ねえ。しかも揃ってるっていうことがきわ立つペインティング。うーん、鳥のようですねえ、しかも後ろは山。

廣野『ロケーションがいいですね。展示してあるものも、山とか入れて撮りたかったんですけど…。まあ、でも今回はアクロバットだけでなく、太平洋戦争の頃の戦闘機とか爆撃機も飛ぶんですよ。それもただ飛ぶだけでなく、背中をばっくりと見せてくれたりするんですよ。』

—— 老骨にムチ打って… (笑)。

廣野『さすがアメリカ空軍50周年記念と思いましたね。あちらのマニアというのは、僕らなんか足もとにも及ばない。グループで昔の飛行機を復元して持っていたりするんですよ。そういう人達が今回それを持ってきて、飛ばしたり展示したりしていたんです。これなんか(画面をさし)B17ですね。昔はこんなカラーじゃなかったと思うんですが、復元した人の好みなんでしょうね。』

—— 何ですか。この黒い大きなエイみたいなのは？

廣野『これはB2という爆撃機です。敵のレーダーから発射された電波をこの平面の機体で、あさっての方に飛ばしちゃうんですね。レーダーの電波というのはモノに当たって戻ってくるからキャッチされる。それができないように考えられてるんですね。』

—— うーん、恐るべし。こんな恰好で良く飛びますねえ。

廣野『これ飛んだ時、アメリカの人はヒャーヒャー言って喜んでました。ただ軍事機密の魂ですから、展示してあっても100フィートくらい近づけないんです。』

—— ちょっと見られないものですよ。マニア垂涎的といったものを間近でご覧になって、カメラに納めて…堪能しましたか？

廣野『そうですね。まあ、というか、さらに見たくなる… (笑)。でもね、仕事忙しい中を行かせてもらったんだから…。でも行っても、仕事のことはやはり気になりましたね。あ、このパッカー車は、とか (笑)。でも父がね、行くまではシブイ顔してたんですけど、こちらを発つ日に、僕ではなく女房に電話で「仕事のことは忘れて楽しんで来い」って言ったらしいんですね。』

—— おお！なんていいお父さまでしょう。感謝感激ですね (笑)。しばらくは仕事に専念して恩返しを…。

廣野『それがまたすぐ行くんですよ。でも国内で、土・日ですから… (笑)。』

—— うーん、何が駆り立てるのか…。

廣野『飛行機って同じようで一機一機、違うんですよ。自分では空を飛べない僕ら人間の永遠の憧れ……違うかなあ？ (笑)』

INTERVIEWER

花井 美紀

(株)コミュニケーションデザイン代表
イベント司会・コーディネーター、
ビジネスマナーインストラクター、
信用金庫協会女子職員講座の専任講師。
TV、ラジオ等で現在活躍中。



「……同じようでも違うその魅力……」